



地球は最初はどんなだったの

地球は約46億年前にできた

約50億年前、宇宙に、雲のようにガスやちりがただよっている所がありました。やがて、ガスやちりは、うずを巻いて固まる所ができてきました。そして、ちりどうしが集まってどんどん大きくなっていき、その中心が太陽となつてかがやき始め、太陽のまわりに、小さな固まりがいくつもできました。

そして、太陽のまわりの、ガスやちりの中に固い物(びわく星)ができ、これがぶつかりあったり、こわれたりし、また、とけてくっついて大きくなつたりしながら、約46億年前に、地球が誕生しました。

最初は火の玉のような物だった

地球ができたころは、どろどろした火の玉のような物でした。それは、たび重なるびわく星のしょうとつにより、表面の温度が、1000以上にもなったからです。

まわりは、二酸化炭素の雲におおわれていました。そのころは、まだ海がなく、生物も生まれていませんでした。

地球がだんだん冷えてくる

地球がだんだん冷えてくると、とけた岩石から大量に出された水蒸気などが、雲をつくり、たくさんの雨を降らせて、海ができました。やがて、海の中に生物が生まれました。海や陸の植物が酸素をつくり出すようになり、大気中に酸素がふくまれるようになったのです。これは、地球が誕生してから5~7億年もたってからです。(監修・国司 真)

